



舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第1弾

東松山戯曲賞優秀作朗読劇

枇杷の 家



演出 瀬戸山美咲
作 緑川有

公演日：平成31年3月24日(日)

①11:00開演 ②15:00開演

公演場所：東松山市松山市民活動センターホール

チケット発売日：平成31年2月5日(火)

主催／公益財団法人東松山文化まちづくり公社

～平成家族物語～ 舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第1弾

東松山戯曲賞
優秀作朗読劇

枇杷の家

作 緑川有 演出 瀬戸山美咲

「枇杷の家」あらすじ

風子（六十二歳・未亡人）は、異常にポジティブである。そのうえ、妄想癖までありそう。薫（六十二歳・独身。会社員だったが今は無職）は、やや斜にかまえた毒舌家。月子（五十八歳・独身。フリーランスのライター）は、恋に無縁だと悩みつづ常に冷静なタイプである。そんな三人が、庭に大きな枇杷の木がある一軒家を借り、シェアハウスとして暮らし始めて3年目を迎えている。

リビングでは、何かと理由をつけて宴会が始まる。酔いがまわると、三人のディープな本音が怒濤のごとく飛び交い絡み合う。アラ還の大人の女だからといって、古くからの友人だからといって、優しいわけでも、思いやり豊かなわけでもない。言いたい放題、むしろ、わがままである。言葉のバトルとささやかな癒しが交差する三人の日常である。

そんな中、薫はどうやらお付き合いを始めた男性がいるようだ。と、同時に風子にもそんな男性の存在が明らかになる。風子と薫がそれぞれ月子に語った「すうり」と姿の良い素敵なおじさま。は、ビジュアルだけではなく、天才的な褒め言葉までそっくりだ。月子だけが知ってしまった危険な関係は、ある日、枇杷の家でドラマチックな結末に向かう。

～平成家族物語～
舞台芸術による
まちづくりプロジェクト



東松山市は、自然豊かな里山があり、それでいて東京へ一時間ほどで行ける、いわば都心のベッドタウンである。

戦後の東京集中に伴う宅地開発が進み、昭和から平成にかけて人口が増加し、現代もそれは続いている。平成31年4月30日をもって、平成という時代の幕が下りる。

平成家族物語という企画は、この時代を生きてきた私たちが感じたこと、家族の姿を、東松山市をはじめとする大都市周辺の街が舞台となる作品を選び、またそれを上演することにより、来るべき新たな時代を考えていこうとするものである。

ボランティア スタッフ募集 私たちと一緒に演劇制作に携わってみませんか？

お問い合わせ先：公益財団法人東松山文化まちづくり公社 (TEL) 0493-24-6080
担当 鈴木・中山

出演

11:00 開演回

塚本暢子 藤本しの 若林玲子 比島順

15:00 開演回

佐藤静子 澤田京子 杉田秀子 水谷幸太郎

◎公演日 平成31年3月24日(日)

①11:00開演(10:30開場)

②15:00開演(14:30開場)

◎チケット発売日

平成31年2月5日(火) 10:00～

◎チケット料金

一般:2,000円

高校生以下:1,000円(未就学児はご入場できません)

チケット 取扱い

- 公益財団法人東松山文化まちづくり公社
(TEL)0493-24-6080
- CNプレイガイド
(TEL)0570-08-9999

◎会場 松山市民活動センターホール

〒355-0014 東松山市松本町1-9-35

<http://www.city.higashimatsuyama.lg.jp/shisetsu/shisetsumenu2/1353563072270.html>



※松山市民活動センターでは、チケットの販売はしていません。

■電車をご利用の場合

東武東上線、東松山駅東口下車
徒歩約10分

■自動車をご利用の場合

川越方面からは国道254号を、
熊谷方面からは国道407号を経て、また、関越自動車道からは東松山インターを降りて川越方面へ向かい、それぞれ東松山市街へ。

◎Staff

照明：菅沼翔太 音響：金子伸也 演出助手：まりあ 舞台監督：須田雅子

主催：公益財団法人東松山文化まちづくり公社

プロデューサー／理事長：石田義明 事業統括：塚越茂 制作：鈴木和幸・中山智恵 制作補：石川まい子・岩崎達也・沖田瑠璃子

共催：東松山市教育委員会 協力：彩の国さいたま芸術劇場

後援：埼玉県・埼玉県教育委員会・東松山市・公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

朝日新聞さいたま総局・NHK さいたま放送局・FM NACK5・共同通信社さいたま支局・埼玉新聞社・産経新聞社さいたま総局・時事通信社さいたま支局

テレビ玉・東京新聞さいたま支局・日本経済新聞社さいたま支局・毎日新聞さいたま支局・読売新聞さいたま支局

助成：一般財団法人地域創造

beyond2020 認定事業 東松山市まち・ひと・しごと創生認定事業

宣伝デザイン：櫻井印刷所



一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for Regional Art-Activities

イベント開催!

「平成の家族を語らう会」

～くっちゃべり芝居を観てのくっちゃべり会～

日時：平成31年3月24日(日) (朗読劇「枇杷の家」15:00開演回終演後)

場所：松山市民活動センター 展示ホール

参加方法：朗読劇「枇杷の家」公演のチケットをお持ちの方、先着50名様

受付開始日：平成31年2月5日(火) 10:00～

※窓口、もしくは、お電話にて、お申し込みください。

登壇者：井岡道子(緑川 有：優秀作「枇杷の家」原作者)・井崎彩(週刊文春WOMAN編集長)

・鶴津隆文(NPO法人フォーラム自治研究理事長)・瀬戸山美咲(「枇杷の家」演出家)

・渡辺弘(埼玉県芸術文化振興財団業務執行理事兼事業部長) (五十音順)

進行役：石田義明(東松山文化まちづくり公社理事長)

協力：NPO法人フォーラム自治研究

テーマ：『平成の家族、そして新しい時代』

全国から43作品が集まった平成家族物語。その中には多彩な家族が描かれていた。血のつながりを問うもの、虐待、LGBTなど今まさに話題になっているテーマが多く取り上げられていた。

そして、優秀作に選ばれた「枇杷の家」は三人のアラ還女性が住むシェアハウスが舞台だった。大都市近郊の街を舞台にした、平成の時代らしい家族を描いた作品だ。

そこでこの「平成の家族を語らう会」では、「家族」に焦点をあて、それぞれの見地から、平成の30年間で日本の家族がどのように変容して来たかを語りさらに来るべき新しい時代の家族像を描きだす。